

科目名	外国史Ⅱ Foreign History II						
科目担当者	中堀 博司 NAKAHORI Hiroshi						
単位数	2	配当年次	2 年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科〔専門教育科目 自由科目〕 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	ヨーロッパは、日本とは反対側のユーラシア大陸の西端に、数多くの小さな国々から構成された地域である。15 世紀の大航海時代から、この地域の国々が、アジアやアメリカ、あるいはアフリカに進出し、交流や衝突を繰り返しながら、現代世界は成立した。それでは、ヨーロッパはどのように成立し、「世界の一体化」はどのように進んでいったのだろうか。本授業では、近世および近現代の 2 つの時期についてヨーロッパ世界の形成とグローバルな交渉過程を概観する。その際、比較の視点を重視しつつ、世界史上の重要な論点に目を向け、学生との双方向的な対話の中で学修を行う。グローバル化する世界をその歴史の深みから理解することを主眼とする。						
授業の到達目標	①ヨーロッパの大きな歴史的流れを理解した上で、固有の歴史的背景・文化をもつヨーロッパ諸国の知識を身につけ、「世界の一体化」の諸相を理解する。 ②ヨーロッパの歴史を通して、歴史的思考や異文化理解の能力を身につけ、説明できる。 ③わが国の外の世界に対する幅広い関心を常に持つ。 ④日本の歴史、世界の地理、現代の政治経済、海外観光事情等に関する知識を並行して身につける。						
授業計画・内容	1	後学期オリエンテーション					
	2	近世史の論点（0）テーマ設定					
	3	近世史の基礎知識					
	4	近世史の論点（1）世界システム論（学生報告 1・2）					
	5	近世史の論点（2）宗派化（学生報告 3・4）					
	6	近世史の論点（3）複合国家（学生報告 5・6）					
	7	近世史の論点（4）イギリス革命（学生報告 7・8）					
	8	近世史の論点（5）財政軍事国家論（学生報告 9・10）					
	9	近現代史の論点（0）テーマ設定					
	10	近現代史の基礎知識					
	11	近現代史の論点（1）フランス革命（学生報告 1・2）					
	12	近現代史の論点（2）イギリス産業革命（学生報告 3・4）					
	13	近現代史の論点（3）「ドイツ特有の道」（学生報告 5・6）					
	14	近現代史の論点（4）帝国主義論（学生報告 7・8）					
	15	近現代史の論点（5）ナチズム（学生報告 9・10）					
授業外学修 (事前学修)	毎回必ずテキストの熟読を行う（約 2 時間）。 但し、テキストからテーマを選んで、学生各自が 2 回自分で調べ報告しなければならないので、その際はより集中的に準備し、取り組む必要がある。						
授業外学修 (事後学修)	毎回テキストの復習と最終レポートに向けての準備を行う（約 2 時間）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法 発言・リアクションペーパー（各回） ミニレポート（2 回） 期末レポート					評価比率 10% 30% 60%	到達目標との対応 ①②③ ①②④ ①②③④
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	金澤周作監修、藤井崇ほか編著『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年（税込 ¥3,520）。						
参考文献	近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999 年。 木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説世界史研究』山川出版社、2017 年。 小山哲ほか編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011 年。						
その他	受講にあたっては、日々生じている世界における出来事や、歴史・文化一般に対する関心が重要で、日本の歴史、世界の地理、現代の政治経済、海外観光事情等に関する知識をあわせて修得することが必要である。なお、受講者数に応じて、報告テーマの順序や内容を変更する場合がある。						